

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的にかつ効果的に進められている実践事例
-------	---

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

島根県飯南町

○学校名

飯南町立赤来中学校

○学校のURL

<http://www.jhs-akagi@ed.iinan.jp>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 3 学級、【特別支援学級】 2 学級、【合計】 5 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 74 人（平成27年5月1日現在）
（内訳：1年14人、2年28人、3年32人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成25・26年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「あふれる活力とあたたかい心を持ち、たくましく生きぬく生徒の育成」

【人権教育に関する目標】

- ・ 自他を肯定的に受け止め、互いの良さを認め、ともに成長しようとする生徒
- ・ 夢をもち、互いに支え合いながら、豊かな自己実現を図ろうとする生徒
- ・ 人権に関する知的理解を深め、人権感覚を高め、自他の人権を守ろうとする生徒

○人権教育に係る取組一口メモ

自尊感情を高め、互いを認め合い、共によりよく生きる生徒の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

- 自尊感情を高め、互いを認め合う授業づくり
 - ・ 「学び合い学習」の推進
 - ・ 人権学習、同和問題学習
 - ・ ユニバーサルデザインの授業
- 自尊感情を高め、互いを認め合う集団づくり
 - ・ 自主性・主体性の育成を目指した特別活動
 - ・ 人権が尊重される学級集団づくり
- 家庭・地域における自尊感情の育成
 - ・ 保小中一貫教育 ・ 家庭地域との連携

3. 特色ある実践事例の内容

【「学び合い学習」の推進】

(1) 取組のねらい、目的

自分の意見を聞いてもらうことで自己存在感を感じ、自分の意見を述べることや話合いの折り合いをつけることで自己決定し、学び合う中で互いの良さを見つけ共感的な人間関係を育んでいくことをねらいとした。

(2) 取組を始めたきっかけ

本校の生徒の課題として、学習意欲や学力の差が大きいことや積極的に発言するのはいつも決まった生徒であること、教師の話静静地に聞いてはいるものの学習内容が十分に理解できていない生徒がいることなどがあげられる。これらの課題を克服するためには学力や学習意欲を高め、「自尊感情」の高まった生徒を育てることまた、授業が分かる喜びを感じることで「自己肯定感」を育み、他者とともに学ぶことで「自己有用感」を育むことのできる授業を創造する必要があると考えた。そこでこれまでの教師の教育観や指導観を変える必要があることを痛感し、一斉学習（講義形式）から「学び合い学習」へと授業改善に取り組むことにした。

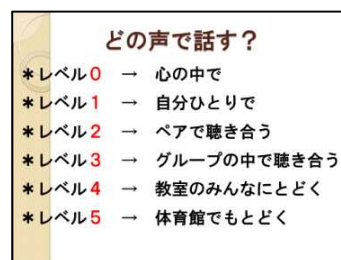
(3) 取組の内容

本校では「学び合い学習」とはすべての生徒がわかるように、学習に取り組めるようにするための「学び合い」とであると定義し、学びが成立するためには学級の中で①「わからない」ということが安心して言えること②一人の「わからなさ」が共有できること③「わからないこと」が学習課題になることが必要であると考えた。

『授業は教師と生徒同士の“学び合いの場”である』という視点に立ち、学習課題や学習形態を工夫し、教師の姿勢や学習の約束などについて共通理解を図り、すべての生徒がわかる授業、取り組める授業を目指して、学び合い学習に取り組んできた。4月には全校生徒対象に学習ガイダンスを開き、その中で学び合い学習のねらいや学び合いことば、発言の声のレベルなどについて再確認した。



<学び合いことば>



<声のレベル>

校内研究授業において

○ 学習指導案

学習の主体者を生徒とし、「生徒の思考がどう働くか＝学びのデザイン」を考える指導案づくりに努めた。

また、授業後の研究会では、1時間の授業で生徒がどのような学びをしたかを検証するために、指導案

第〇年〇〇学習指導案

1 単元

2 目標

・

・

6 本時の学習

(1) ねらい

(2) 展開

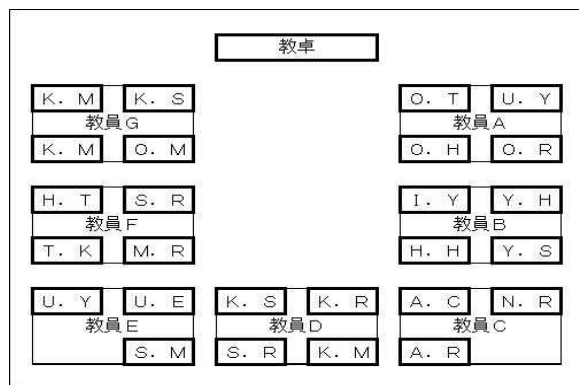
(3) 評価基準

(4) 期待する学びの姿

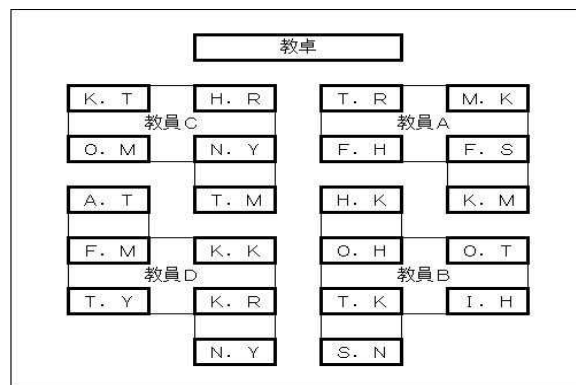
の最後に「期待する学びの姿」を明記し、授業参加者はその視点に基づいて研究協議を行うことにした。

○ 研究協議において

実際の研究授業では、下図のようにグループごとに担当教員を決め、生徒一人一人の「期待する学びの姿」を見取ることにした。そして、研究協議では、グループ担当の教員が、グループでの生徒同士の関わりや生徒一人一人の学びの様子について、それぞれが発表することにした。このような研究協議のスタイルにしたことで、研究授業に向かう教員の姿勢が大きく変わってきた。



< コ の 字 型 学 習 >



< グ ル ー プ 学 習 >

【「特別活動の充実」と「人権が尊重される学校・学年・学級集団づくり」】

（１）取組のねらい、目的

「安心して学び合い高め合う集団をつくる」ことをねらいとし、ねらいを達成するために①失敗を大切にし、子供たちがお互いにつながることができるような支援をすること②学校行事等を、子供たちが主体的に活動できるように見直すことの２つを意識して取組を行った。

（２）取組を始めたきっかけ

特別活動は、集団の一員として活動していく過程を通して、その集団の中で自分がどれだけ大切な存在であるかを自覚する「自己有用感」が育まれる。特に学校行事では、異年齢集団活動を取り入れることが多いため、学年の枠を越えてより良い人間関係を築くことができる。本校は小規模校であるため、学校行事を行う際は、１年生から３年生まで全ての生徒が様々な役割を担うことになる。ふだんの生活では、限られた人間関係の中でリーダーとなる生徒、それを支える生徒といった役割が固定化されている。しかし、学校行事においては、誰もが責任ある立場に立ち、苦勞しながらも精一杯努力することで、大きな達成感を感じることができている。一人一人の責任が大きいからこそ、生徒には互いに励まし合い協力しようとする意識が育っている。自分がいないと学校行事が成り立たないという強い思いのもと、生き生きと活動に取り組む姿勢も育っている。そのため毎年学校行事が成功すると生徒は学年を越えて互いの良さに気づき、それを認め合うことで自己肯定感や自己有用感を高めている。

以上のことから、本校では異年齢集団活動を柱とする学校行事に特に力を入れ、毎年その工夫・改善に努めている。

(3) 取組の内容

特別活動の充実

《体育祭での取組》

体育祭で特に大切にしているのは、生徒同士の関わりである。色決め集会や色別交流会、色別活動など、生徒同士が話し合う場面を多く設定した。その結果、自分たちの力で創り上げている体育祭であると実感しながら準備をすすめているように感じている。そのような生徒主体の活動を展開していく途中で幾つもの感動する場面が見られるようになった。体育祭前日に色別に円陣を組み、意気込みを語り始めること、当日の体育祭終了後にそれぞれが思いを述べること……。中には感極まって涙を流しながら、感謝の気持ちを伝える生徒がいたり、先輩への憧れを伝える後輩がいたりした。これらは教職員のはたらきかけではなく、生徒たちが自ら考え、自ら行動している、いわゆる自然発生的な場面である。特に色ごとに解散した後に、生徒会長を中心として、全校で一つの輪が作られ、生徒会長や色長などが胴上げされたシーンは感動的であった。

《文化祭での取組》

文化祭は、委員会ごとに分かれて行う活動が多い。そのため、3年生を中心に企画書の作成から運営までを全校生徒で行うことにした。その結果、例年以上に所属感を感じ、前向きに活動に向かう姿が多かった。特に、生徒会のスローガンである「輝」と文化祭のスローガンである「響」を融合させたものを生徒たち自ら考え、全校で制作に当たった。小さな星には、全校生徒の文化祭の意気込みが書かれている。全校が関わって仕上げたため、確かな一体感を感じることができた。

また、合唱コンクールは学年対抗で実施している。学年ごとに人数や男女比に違いがあるが、コンクール形式で行うことで、生徒たちの意欲は高まっていると感じている。「3年生に勝ちたい。」「1、2年生に負けたくない。」など様々な思いの中で、生徒たちは真剣に練習している。合唱コンクールが終わった後の生徒の感想には、「3年生の歌はすごかった。」「いつか自分たちも3年生のように歌えるようになりたい。」「3年生に勝つことができなくて悔しかった。」「自分たちの合唱も上手だったと思う。」「最後の最後まであきらめなくてよかった。」「1、2年生の合唱も驚くほど上手だった。」などがあつた。

文化祭では、『学年対抗の場面』、『学年を越えて協力する場面』の双方を活動に取り入れることで、自己肯定感や自己有用感を高めることができたと感じている。

人権が尊重される学校・学年・学級集団づくり

《アンケート調査を生かした取組》

アンケート調査シートを生かした学級経営案の作成（H26年度の取組）
H26年度は、昨年度からの個別の支援の継続と見直しを検討し学級経営に生かすため、アンケート調査シートの様式を応用した学級経営案を作成し、全教職員の共通理解の

もと学級経営に当たった。

平成26年度 第 学年 組 学級経営案																							
1 学校教育目標	担任 []																						
2 めざす生徒像	① ② ③																						
3 本年度の研究主題	[]																						
4 学年及び学級担任の願い	[]																						
5 学級集団の現状（長所と課題）	[]																						
6 個別支援が必要な生徒の様子	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>名前</th> <th>生徒の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		番号	名前	生徒の状況																		
番号	名前	生徒の状況																					
7 学級目標	[]																						
8 学級経営の具現的な取組や手立て	◆：共通事項 □：学級独自 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標の取組</th> <th> </th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>授業外</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>特別活動・行事</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>校内・校外連携 関係者対応</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>資源支援</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		目標の取組		授業		授業外		特別活動・行事		校内・校外連携 関係者対応		資源支援										
目標の取組																							
授業																							
授業外																							
特別活動・行事																							
校内・校外連携 関係者対応																							
資源支援																							
9 個別支援が必要な生徒への具現策	<table border="1"> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>																						
10 交流のバランス	ルールづくり ← → 人間関係づくり																						
11 交流のバランス	友人関係 学級交流 教師関係 学級関係 進路指導																						

《人権尊重の視点に立った教室環境づくり》

支持的風土のある学校・学年・学級集団づくりを目指して行った活動に、教室環境づくりがある。特に学校の掲示物について工夫、改善に取り組んだ。

a) 学び合いことば、学び合いのルールへの掲示

学び合い学習を進めるときのルールや学び合いことばを意識させ、学習に取り組めるように掲示をした。

b) 学級目標、個人目標の掲示

学級会を開催し、話合いのもと目標を決め、学級目標を掲示した。一人一人の学級への所属感を高めるために掲示物にも工夫し全員が関わるよう配慮した。



c) 年間予定表の掲示

一年間を見通して活動できるように、年間予定表を掲示した。

d) 個人の感想やメッセージの掲示

お互いの意見の交流を目的に、行事への思いや感想などを掲示した。友達の頑張りをみつけたり、自分の良さに気づいてくれたりするコメントに、それぞれの生徒がうれしい気持ちになる場面が見られた。

e) かがやき掲示板の設置



生徒会からのお知らせや下級生から上級生への大会応援メッセージや上級生からのお礼のメッセージなどを掲示し、他学年との交流を目的にした掲示を行った。また、部活動の大会の様子や大会結果などもこの掲示板を利用した。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

【「学び合い学習」の推進】

- 小グループで「学び合い学習」を行う際に、近くの席に座っている生徒同士や教師側が意図的に編成したグループ同士で「学び合い学習」を行っているのが現状である。今後は生徒が必然性を感じ、自然発生的に生じるグループでの「学び合い学習」もできるように、さらなる授業改善に努めていきたい。
- 「学び合い学習」についてのアンケートにおいて、生徒から「学び合い学習では、みんなで協力してもっと難しい問題を解いてみたい。」という意見が出された。ただ何となく自分の意見を発表し、聴き合って終わりの「学び合い学習」にならないように、学びを深め、学びの質を高められるような学習課題を教師側が設定していく必要がある。また一方で、「もっと静かで、一人一人が集中できる授業がしたい。」という意見もあった。形だけの「学び合い学習」にならないためにも、学習形態の工夫や学習規律のさらなる徹底が課題である。

【「特別活動の充実」と「人権が尊重される学校・学年・学級集団づくり」】

- 学校行事をつうじて得ることができた学級の連帯感や学年の枠を越えたつながり等の良好な雰囲気がふだんの学校生活に根付いていくことの難しさもある。それはアンケート調査の中で「自分の存在が他者から認められているか」、「学校生活に満足しているか」といった質問項目において個人内評価の低い生徒がクラスではやはり固定化している現状があるからである。それに対し、教職員側がアンケート調査の結果を分析し、それぞれの生徒に対してどのような支援をしていくかを共通理解し、根気強く関わることで生徒の個別の変容や良好な友達関係の構築につながる例もある。日常生活の一つ一つで、生徒の頑張りを認め、その活躍や頑張りを周りの友達にも理解してもらえよう教師の働きかけが、学級集団の中で「自分の存在が他者から認められている」、「学校生活に満足している」といった生徒の変容につながることを実感した。

5. 実践事例の実績、実施による効果

【「学び合い学習」の推進】

- 学習内容が理解できないまま黙っていた生徒や学習意欲が低く、これまで授業中にほとんど発言しなかった生徒も前向きに授業に取り組めるようになった。一斉授業の中ではプリントを配られても何を書いていいかわからず、ただ座っているだけだった生徒が「学び合い学習」の中では、友達に「教えて」と声をかけ、積極的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。小グループで学習に取り組む中で友達からノートまとめが上手だと褒められたり、意見を認められたりすることで自信を持って学習に取り組めるようになった。

- 各教科・領域で継続して「学び合い学習」に取り組んだことで、生徒の中にも“教師対自分”という一斉授業の形態が当たり前なのではなく、友達同士でも学習を深めていけるという気付きや友達の考えをもっと聴きたい、伝え合いたいという思いが生まれてきた。“友達と学び合うことは楽しい”という思いが生徒の中に芽生えたことで、学習意欲も確実に高まってきていると感じる。また、互いの考えの違いや良さを素直に認め合えるあたたかな人間関係が構築されてきたことで、たとえ間違えた答えを言ったとしても笑われないという安心感の中で学習に取り組んでいる。

【「特別活動の充実」と「人権が尊重される学校・学年・学級集団づくり」】

- 体育祭や文化祭などの学校行事後に行ったアンケートでは、9割を超える生徒が「充実感を味わうことができた」と回答している。また、「友達からほめられたり認められたりした」、「人と協力しながら自分の力を発揮することができた」といった項目でも、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしている。行事後の感想や生徒同士のメッセージの中でも、学年を越えて感謝の気持ちを伝え合い、感動を分かち合う生徒の姿が見られた。
- アンケート調査の結果からも、特別活動を充実させることで生徒の承認感が高まり、生徒間のかかわりも向上するきっかけとなることがわかった。

6. 実践事例についての評価

「学び合い学習」の推進や「特別活動の充実」等の様々な取組により、島根県が実施した学力調査（平成26年4月実施）の意識調査では、「自尊感情に関する項目」について、どの学年も県の平均を上回るという結果が出た。日常の姿を見ても、生徒一人一人が自尊感情を高め、素直な気持ちで互いを認め合えるあたたかい人間関係が築けていると感じる。

また、研究に取り組むことで私たち教職員の意識も大きく変わり、生徒の自尊感情を育むという共通の目標に向かって授業や特別活動の在り方を見直し、話し合いながら改善することができた。その結果、アンケート調査では、「教師との関係」を問う項目において、どの学年も全国の傾向より望ましい方向にあるという結果であった。更に島根県学力調査の意識調査においても、「自分から勉強したくなるような授業をしてくれる先生がいる」、「わからなときがあるとき、個別に教えてくれる先生がいる」といった項目で、肯定的な回答をした生徒が全学年県平均を上回る結果となった。

研究を通して、教職員の意識が変わることで、授業が変わり、生徒が変わり、学校が変わるということを感じている。今後も、「自尊感情を高め、互いを認め合い、共により良く生きる生徒の育成」を目指し、教職員が一致団結した取組を進めていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

飯南町立赤来中学校

「学び合い学習」の方法による「自尊感情を高め、互いを認め合う授業づくり」と「特別活動の充実」による「自尊感情を高め、互いを認め合う集団づくり」を主要な2本の柱に学校全体として取り組んでいる事例である。学び合い学習では、学習意欲や学力の差等を課題と捉え、分からなさを共有し、すべての生徒が学習内容を十分理解できるようになることで自尊感情を高めるとともに、互いを認め合う人間関係を育もうとしており、「講義形式」から生徒同士に加え教師との円滑な意思疎通が図れる「グループで学び合う」学習形態を取り入れたところに特徴がある。

体育祭や文化祭等の学校行事の重要な役割を1年生から3年生までのすべての生徒が担う「異年齢集団活動」を行うことにより、「自己有用感」を育むことを目指す特別活動など、全生徒数が74人の小規模校という特性に着目した取組となっている。